

かぬま文化

つくるう 伸ばそう 鹿沼の文化

No.181

発行人 鹿沼市文化協会
発行責任者 会長 鈴木 貢
編集委員会 委員長 小林 夏江
印刷所 晃南印刷(株)

令和7年度通常総会報告

生活文化部門事業「お茶とお花のフェスティバル」の実施を決定

令和7年度通常総会を、5月17日土曜日、かぬまケーブルテレビホール(鹿沼市民文化センター)大会議室で開催いたしました。



高橋進副会長

ご来賓は、松井正一市長をはじめ、神谷幸伸県議、湯澤英之県議、大貫毅県議、金子昭彦商工会議所副会頭、谷中恵子市長、市議会教育福祉常任委員会の藤田義昭委員長、宇賀神敏副委員長、梶原隆委員、教育委員会から中村仁教育長、そして



湯澤英之県議会議員



谷中恵子鹿沼市議会議長



松井正一鹿沼市長

て文化協会の西山義信参与、岩本久美子参与のお二人、合わせて13人のご臨席をいただきました。初めに高橋進副会長の主催者挨拶の中で、昨年実施した文化協会自主事業の「ギャラリー

フェスティバル」は、絵手紙、書道、マンガ・イラスト、写真がそれぞれ工夫を凝らした体験教室を実施して、各会の魅力を広く発信し新規加入に繋げたことを報告しました。

続いて、今年度の鹿沼市文化協会文化功労者の表彰を行いました。永年のご尽力を讃え、「ミクロの世界」の高岡正之さんと「茶道裏千家池田教室」の池田宗静さんのお二人に表彰状を授与し、受賞者を代表して高岡正之さんに謝辞をいただきました。



会員表彰 高岡正之さん(右) 池田宗静さん(左)



会場の様子

の事業に2つの大きな事業に向けて

次に来賓を代表して松井正一市長、湯澤英之県議会議員、谷中恵子市長会議長の3名からご祝辞をいただきました。

議事進行については、高橋進副会長を議長として、令和6年度事業報告、決算報告と令和7年度事業計画、予算等が審議され、全て承認されました。

令和7年度の事業計画については、部門事業として生活文化部門が担当し、「お茶とお花のフェスティバル」を開催することと、令和8年度栃木県文化振興大会、令和

目次	
令和7年度通常総会報告	1
書道教室「和」	1
鹿沼・栗野合併記念講演会	2
牧俳句会	2
詩遊会	3
鹿沼市民文化祭のお知らせ	3
鹿沼市民文化祭開催日程	4
編集後記	4

書道教室「和」と友に

書道教室「和」代表 板橋 和子

今年度から書道教室「和」は新たに文化協会に加入しました。5人の生徒さんと共に書の研鑽を積んでおります。また、かぬまマイ・カレッジ事業「かぬま生涯学習大学講座」で講師を務め、茂呂保育園学童保育事業では、子供たちに書道を教えて、地域に根ざした活動をしていきます。

私事としては、二年前から漢字かな交じりの書を学ぶため、創玄会書道会評議員の塚原秀巖先生に師事し、今年三月に創玄展二科賞を受賞しました。

これを糧に益々精進して、書道教室「和」と共に、文化協会に貢献していきたいと思っております。

て会議を開催することなどを説明しました。

今年の総会は天候不良が予測されたため、多目的ギャラリー前の中庭「美を楽しむ空間」での呈茶席を中会議室に変更しました。天候に恵まれなくても大勢の方に参加いただき、お話が尽きることなく活気のある楽しい様子が見られ、会

(事務局 福田由子)



呈茶席

鹿沼・栗野合併記念講演会を開催

鹿沼史談会長 福田 純一



鹿沼・栗野合併記念講演会

合併の歴史は明治21年（一八八八年）の明治の大合併に始まりますが、その

鹿沼史談会は鹿沼市及び関連する地域の歴史を研究し、併せて郷土文化の向上に寄与することを目的に活動しています。年1回機関誌「鹿沼史林」を刊行するほか、史跡見学会やふるさとめぐりなどの活動を展開しています。本年は鹿沼と栗野が合併して20年の節目の年に当たり、市を挙げて記念事業が展開されていますが、鹿沼史談会では市立図書館との共催で「合併記念講演会」を開催しました。



講師 駒場一男氏

の約60年後に行われた昭和の大合併では、県の試案で栗野と合併する予定の南摩村が住民投票で鹿沼と合併となり、北半田地区が西方村や南押原村の一部と純農村を目指す動きがあり、さまざまな困難を乗り越えて鹿沼市と栗野町の枠組みが形作られたことが語られました。そして昭和の合併から再び約60年後に行われた平成の大合併では、栗野町が鹿沼市に吸収合併されましたが、その過程で永野地区の分町をめぐる住民投票が行われています。駒場さんは、当事者として知ることのできたエピソードを交えながら、百二十年に亘る合併の歴史をわかりやすく説明しました。参加された方々との質疑応答もあり、たいへん中身のある講演会でした。

寺社の俳句奉額

牧俳句会代表 駒場 一男

鹿沼市内各地の神社や寺院には、俳句の掛額が奉納されている。江戸時代末期から明治・大正にかけて郷土の俳句愛好者たちが宗匠の選を経て列記したものが多く、これを掛額または奉額という。清記された俳句は雨風にさらされず保存されている。これらの俳句を読むと先人たちがどんな暮らしをしていたのか伺い知ることができる。しかし、掛額の俳句はおおむね御家流の書体で、くずし字・変体仮名・俗字・異体字が混ざり読み解くまで時間がかかる。さらに作句者が雅号（俳名）であるため正式な姓名や住所もわからない。



入栗野賀蘇山神社 俳句奉額

俳句の掛額については『鹿沼市史・通史編近現代』の中にも一部が紹介され先人たちの文化活動の一端を知ることができる。また、竹末広美先生の著書『下野の俳諧』でも県内の俳人たちの俳句や結社が紹介されている。小生も鹿沼市内の俳句掛額はいくつか拝見したが、旧栗野町近辺の神社掛額から印象に残る句と作者像を紹介する。

② 出流山満願寺の俳句奉額の一つ。
 ほとる手に山水掬ふ二月かな 乙子女（おつね女）
 【解説】句意は、温もった女性の両手が2月の山水を掬ふ（すくふ）姿が目に見え、作者は下永野村名主の池澤棟好（ばいこう）の息女で本名はツネ、女傑といわれた。この句、師事する真実庵抱義宗匠により選句される。乙子女の父、棟好も俳句を作り、大越路峠頂上の古道わきに芭蕉句碑「梅が香にのつと日の出る山路かな」を建立した発起者の一人である。父子共に俳句を愛した。

③ 発光路薬師堂の奉額（大正3年）
 山越しの吹雪持込む酒屋かな 湖山
 【解説】足尾銅山が繁栄のころ、上粕尾発光路は荷物の中継点として宿場の賑わいがあった。大正期の奉額では26句が並ぶ。この句は、雪降る山奥の酒屋の情景で作者は下都賀赤津の人、三室甚吉。

詩遊会です、よろしく

つおりり よつり

今年度、文化協会に新たに加入致しました「詩遊会」です。

今から十五年ほど前、詩集「くじけないで」で百歳の女流詩人として一躍有名になられた栃木市出身の故・柴田トヨさん。上品な老婦人で豊かな感性と百歳を超えたる人生の豊富な体験から、どなたの心にも響く、柔らかく温かい詩を届けてくださいました。あんな詩が書けたら、と多くのファンは憧れたものです。

柴田トヨさんに限らず、すぐれた詩人は時代や洋の東西を問わず数多く存在しておられます。ハイネやリルケは言うに及ばず、宮沢賢治、石川啄木、高村光太郎、島崎藤村、野口雨情、与謝野晶子等々枚挙にいとまがありません。好きな、或いは好きだった詩人の詩から私たちは生きる指針や勇気を頂いて生きてきました。詩はその人の魂の「こ

とば」であり、たくさんある「ことば」の中から「伝えたいのはこれ」と凝縮され選ばれ生み出されます。人にはそれぞれ伝えたいことや訴えたいことがあります。方法やスタイルはさまざまですが、自分に合った詩のスタイルを見つけて、心に思っていることや、誰かにわかつてほしいことを自分の「ことば」で作品にしてみてください。

褒めてもらおうとか、認めてもらおうなど、邪心を持たず、素直に自分が納得する言葉で綴っていき、良い詩が生まれると思います。自分の心

を知ること、自分の言葉を選ぶことも実のある作業です。

「詩遊会」はその名前の通り詩を楽しむ会なので「ひとつ詩でも書いてみるか」と、気軽に入会してください。月1回の合評会ではそれぞれの詩を持参してみんなを鑑賞したり意見を交換したりしています。心を遊ばせ、詩を楽しんで学んでいきましょう。あなたも一緒に如何ですか。



詩遊会合評会

つくろう のぼそう 鹿沼の文化

第47回

鹿沼市民

文化祭

令和7年9月27日(土)～12月7日(日)



第47回鹿沼市民文化祭開幕式アトラクション
鹿沼市文化協会第15回文化セミナー

みんなで守る鹿沼の文化財

9月27日(土) 開場/13:00 開演/13:30

場所/かぬまケーブルテレビホール(市民文化センター)小ホール



地域再生大賞 優秀賞
(NHKいいじゅー!! 出演)

三乗堂 (仏像修理工房)

「地域の仏像修理そして
守り繋いでいくこと」



整理券配布日

令和7年
8月1日(金)～

整理券配布場所

- 文化協会事務所
- かぬまケーブルテレビホール
- 鹿沼市民情報センター
- 鹿沼市立図書館本館
- 板荷コミュニティセンター

随想舎歴史研出版奨励賞受賞
(『日光開墾仕法と栃木の近代』著者)

堀野 周平氏

「板荷久保田堀から文化財を考える」

第47回 鹿沼市民文化祭開催日程

- ◆開幕式 9月27日(土)午後1時30分 かぬまケーブルテレビホール(鹿沼市民文化センター) 小ホール
◆外部特別企画 「みんなで守る鹿沼の文化財」講演会

部 会 名	期 日	時 間 (予定)	会 場
ホー ル 部 門	歌謡舞踊発表会	10月5日(日)	10:00~17:00 市民文化センター 大ホール
	民謡民舞大会	10月19日(日)	10:00~16:00 市民文化センター 大ホール
	演 劇 祭	10月19日(日)	11:00~15:00 市民文化センター 小ホール
	日 本 舞 踊	11月2日(日)	13:00~17:00 市民文化センター 小ホール
	謡 曲 大 会	11月3日(月・祝)	10:00~13:00 市民文化センター 小ホール
	音 楽 祭	11月3日(月・祝)	12:30~16:30 市民文化センター 大ホール
	バンドフェスト	11月23日(日)	13:00~19:30 市民文化センター 小ホール
	吟詠剣詩舞大会	11月29日(土)	10:00~16:00 市民文化センター 小ホール
	琴・三味線・尺八 三曲演奏会	11月30日(日)	13:00~16:00 市民文化センター 小ホール
ギャ ラ リ ー	ダン ス	12月7日(日)	13:00~18:00 市民文化センター 大ホール
	書 道 展	10月17日(金)~19日(日)	9:30~17:00 (19日16:00) 市民文化センター 多目的ギャラリー
	絵 手 紙 展	11月7日(金)~9日(日)	9:30~16:00 文化活動交流館 ギャラリー
	美 術 展	11月14日(金)~16日(日)	10:00~17:00 (16日16:30) 文化活動交流館 ギャラリー
	写 真 展	11月21日(金)~23日(日)	9:00~17:00 (23日16:00) 文化活動交流館 ギャラリー
生 活 文 化	マンガ・イラスト展	11月21日(金)~23日(日)	10:00~17:00 (23日16:00) 市民文化センター 多目的ギャラリー
	フラワーデザイン展	10月4日(土)~5日(日)	10:00~17:00 (5日16:00) 市民文化センター ふれあいの広場
	華 道 展	10月18日(土)~19日(日)	10:00~17:00 (19日16:00) 文化活動交流館ギャラリー
文 芸	茶 会	11月2日(日)	10:00~14:30 市民文化センター 大会議室・和室
	俳 句 大 会	10月5日(日)	9:00~15:00 市民文化センター 中会議室
	短 歌 大 会	10月5日(日)	10:00~15:00 市民文化センター 大会議室
	川 柳 大 会	10月19日(日)	9:30~16:30 市民文化センター 大会議室
	ふるさと史跡めぐり	10月19日(日)	9:30~正午 まちの駅 新・鹿沼宿から出発 田町通り
	作 品 公 募	短歌・俳句・川柳・創作随筆・詩・歴史	
文 芸 表 彰 式	文 芸 表 彰 式	11月24日(月・振替休日)	13:30~ 市民文化センター 大会議室

※開演時間を変更する場合がありますので、ご了承ください。

編集後記

今年には昭和百年の節目です。激動の時代と言われますが、百年を振り返ると、急激な変化もありました。

そして戦後80年となり、あの戦争を体験した人も、だんだん少なくなってきました。節目のこの年、戦争特集がいろいろなメディアで報道されています。戦争を経験した人誰もが、「もう戦争は二度としては駄目だ」と言っています。広島、長崎の原爆被害者、東京大空襲の被害者、無事生き残ってからも戦争の影響は大きく、決して幸せな人生を送った人ばかりではありません。それなのに、今でも世界中では、ウクライナとロシア、さらにイランとイスラエルの戦争など、争いをなくすことができません。そのたびに、穏やかに暮らしていた人達が巻き込まれて、苦しんでいます。特に、子供たちは何の責任もありません。それなのに飢えや、体の苦痛に見舞われています。みんな、一部の人間の仕業と思います。人間は争わなくては済まない動物のようです。

もう一つ、人災と思われることは、このところの異常気象です。今年はあつと云う間に夏になってしまい、真夏日だ、猛暑日だと言う日が記録を塗り替えています。どうしたらいいものでしょうか？人間根底から改革しなければならぬかもしれません。難しいことです。

こんな中、私たち文化協会は、会員相互に、和気あいあいとその道を研鑽し、各都会それぞれに活動しています。今年もまた、一年間の成果の発表の場である恒例の市民文化祭が開催されます。例年のごとく、楽しく華やかになることでしょう。

本当に幸せに感じています。こんな幸せが世界中に広がり、人々が笑顔で暮らせる日が来ることを心から願っています。